

(様式第1号)

## エネルギー供給温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

### 1 事業者等の概要

氏名又は名称	パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社				
代表者名	氏名	佐藤 基嗣	役職名	代表取締役	
主たる事務所の所在地	〒571-8501 大阪府門真市大字門真1006番地				
事業者の区分	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則第15条第2項に該当する小売電気事業者			
	<input type="checkbox"/>	その他の事業者			
主たる事業の概要	・弊社は主に自社グループの工場やオフィスビルへの電力供給を行っています。				
電力供給量(総量)	71,995	千kWh	電力供給量(長野県)	940	千kWh

### 2 計画期間及び報告対象年度

計画期間	2020	年度	～	2022	年度	報告対象年度	2022	年度
------	------	----	---	------	----	--------	------	----

### 3 公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	
<input type="checkbox"/>	印刷物の閲覧 (閲覧場所・時間等)	
<input checked="" type="checkbox"/>	その他	<b>【担当部署】</b> パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社 グローバル調達本部 間接材調達センター エネルギー調達部 エネルギー購買課 Mail: denki@gg.jp.panasonic.com 電話: 080-3355-8706

(様式第1号)

#### 4 エネルギーの供給に係る地球温暖化対策のための基本方針

##### ■発電事業等に係る取組方針

- ・自社での発電事業なし

##### ■その他の温暖化対策に係る取組方針

- ・再生可能エネルギーによる電力を積極的に調達していきます。
- ・CO2ゼロ工場を実現・拡大
  1. 太陽光発電システムを導入
  2. 全調達電力を100%再生可能エネルギー由来電力へ切り替え（非化石証書を活用）
  3. 化石燃料由来CO2の排出をオフセットするJ-クレジットを活用

#### 5 エネルギー供給温暖化対策計画の推進に係る体制

■全社においては品質・環境本部が中心となって施策を推進

■電力の供給における具体的な取組みはグローバル調達本部が実施。

(様式第1号)

6 供給するエネルギーの製造等に伴い排出される二酸化炭素の抑制に関する目標等

基準年度	実排出係数	0.000442	t-CO2/kWh
2019年度	調整後排出係数	0.000679	t-CO2/kWh
目標年度	目標排出係数	0.000330	t-CO2/kWh
2022年度	目標削減率	25.34%	%
目標設定に関する説明	環境負荷の低い太陽光とバイオマス発電所からの電力調達を行うことで排出係数を削減する。		
第一年度	実排出係数	0.000238	t-CO2/kWh
	調整後排出係数	0.000447	t-CO2/kWh
2020年度	エネルギーの製造等に伴い排出されたCO2量	70.81	千t-CO2
排出係数等の増減理由	調達電源構成の変更（卸電力取引所からの調達増、石炭火力の調達増）による		
第二年度	実排出係数	0.000384	t-CO2/kWh
	調整後排出係数	0.000419	t-CO2/kWh
2021年度	エネルギーの製造等に伴い排出されたCO2量	206.77	千t-CO2
排出係数等の増減理由	調達電源構成の変更による		
第三年度	実排出係数	0.000260	t-CO2/kWh
	調整後排出係数	0.000518	t-CO2/kWh
2022年度	エネルギーの製造等に伴い排出されたCO2量	18.72	千t-CO2
排出係数等の増減理由	調達電源構成の変更による		

(様式第1号)

7 上記6の目標を達成するための措置

以下3点の取組みにより、CO2排出係数の低減を図っていきます。

- ①より環境負荷の低い化石燃料により発電された電力の調達（例：石炭火力⇒LNG火力）
- ②再生可能エネルギーによる電力の積極的な調達
- ③必要に応じたJ-クレジットの活用

8 調達する電気の電源構成に関する見通しと実績

区分		調達する電気の電源構成の割合（W・h比）				
基準年度	石炭火力	6 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く)	0 %
	LNG火力	59 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	10 %
2019 年度	石油火力	0 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	25 %	その他 ( )	0 %
最終年度 における 見通し <sup>※1</sup>	石炭火力	5 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く)	0 %
	LNG火力	50 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	20 %
2022 年度	石油火力	0 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	25 %	その他 ( )	0 %
第一年度	石炭火力	24 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く)	1 %
	LNG火力	17 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	16 %
2020 年度	石油火力	0 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	38 %	その他 (電力会社からの補給インバランス)	4 %
第二年度	石炭火力	27 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く)	0 %
	LNG火力	38 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	11 %
2021 年度	石油火力	0 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	22 %	その他 (電力会社からの補給インバランス)	2 %
第三年度	石炭火力	8 %	原子力	0 %	再生可能エネルギー源 (水力及びFIT電気を除く) 再生可能エネルギー電気特定卸 供給電力	20 %
	LNG火力	47 %	水力	0 %	卸電力取引所 <sup>※3</sup>	19 %
2022 年度	石油火力	4 %	FIT電気 <sup>※2</sup>	0 %	その他 (電力会社からの補給インバランス)	2 %
備考						

※1 「最終年度における見通し」欄には、基準年度時点における事業者の電気の調達計画等の見通しに基づき、特定期間の最終年度を算定期間とする電源構成の概算の見込み割合を記載する。

※2 「FIT電気」とは、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法に基づく認定施設から買い取られた電気で、その調達費用の一部が全電気利用者が負担する賦課金により賄われている電気を指す。

※3 「卸電力取引所」とは、電力の卸取引を行う取引所であって、電気事業法第97条第1項に規定される指定を受けた卸電力取引所を指す。

(様式第1号)

9の1 再生可能エネルギー源により発電された電気の調達量に関する見通しと実績

区分	調達量				再生可能エネルギー源の種類 (内訳)				
					電源	種類別調達量			
	県内分		再生可能エネルギー 電気(FIT電気を除く)	FIT電気					
基準年度	148,626	千kWh	3,121	千kWh	太陽光		千kWh	119,671	千kWh
					風力		千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス		千kWh	28,955	千kWh
					その他 ( )		千kWh		千kWh
2019年度									
最終年度 における 見通し	150,000	千kWh	3,000	千kWh	太陽光		千kWh	120,000	千kWh
					風力		千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス		千kWh	30,000	千kWh
					その他 ( )		千kWh		千kWh
2022年度									
第一年度	151,233	千kWh	1,772	千kWh	太陽光		千kWh	118,166	千kWh
					風力		千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス		千kWh	33,067	千kWh
					その他 ( )		千kWh		千kWh
2020年度									
第二年度	142,790	千kWh	1,646	千kWh	太陽光		千kWh	109,625	千kWh
					風力		千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス		千kWh	33,165	千kWh
					その他 ( )		千kWh		千kWh
2021年度									
第三年度	38,519	千kWh	0	千kWh	太陽光	5,968	千kWh		千kWh
					風力		千kWh		千kWh
					水力		千kWh		千kWh
					バイオマス	32,551	千kWh		千kWh
					その他 ( )		千kWh		千kWh
2022年度									
備考									

(様式第1号)

## 9の2 再生可能エネルギーの普及・供給拡大に関する取組

・現時点で、自社発電所として再生可能エネルギーによる発電はありませんが、低圧および高圧の太陽光発電所からの調達を拡大していきます。

## 10 エネルギーの供給に係る温室効果ガス排出抑制の研究と取組

・家庭内のエネルギーの最適化をめざす、横浜スマートシティプロジェクト(YSCP)デマンドサイドマネジメント(DSM)実証実験を実施しています。

## 11 需要家の省エネルギー対策の推進に関する取組

区分	実施内容
高効率機器の普及促進	・省エネ家電の開発を行い省エネルギー化を促進。
家庭・事業者のエネルギー対策への協力	・家庭用燃料電池システムの普及に向けた販売 ・従来の照明器具に装着できるLED照明の開発を実施
その他	・30分毎の電力使用実績を各需要家に提供していきます。 ・関連省庁および長野県の環境関連政策に関する情報収集に努め需要家に提供していきます。

※ 需要家に対して節電や省エネを誘導する料金体系を導入している場合は、「その他」に記載する。

## 1 2 の 1 地域との連携に関する取組の実施状況

基準年度までに実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パナソニックエコリレーの活動として、ごみゼロ・クリーンアップ、全国109地点の水質調査、里山再生活動等、広域で誰もが参加できる活動推進。</li> <li>・2020年東京大会向け「オリンピックとパラリンピックを題材とした教育プログラム」を独自開発し、学校へ提供。</li> <li>・持続可能な社会をつくるのは人であるという考えのもと、企業市民活動の一貫としてパナソニックがもつ強みやリソースを活かした「学び支援プログラム」を学校へ無償提供。</li> <li>・「NPO/NGOの組織基盤強化のためのワークショップ」を開催。多様な視点で組織の課題を深掘りする組織基盤強化についての講演や事例発表も交えて学び、体験をしていただいています。</li> </ul>
第一年度実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私の行き方発見プログラム」は当社が学校に提供している教育支援プログラムの一つで、多種多様な役割を持って働くことを学び、自分らしい「行き方」を考える内容です。当社社印が講師として学校に出向く「出前授業」を行っています。コロナウイルスの影響で、オンライン実施となりましたが、その特性を活かし海外勤務の社員も講師として参加しています。2020年度は全国23の学校で開催させていただきました。</li> </ul>
第二年度実績	大阪府とパナソニックは、大幅な省エネルギー化を実現する最先端の建築物であるZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の理解促進や導入推進に向けた取組において、大阪府内のZEB化推進に係る連携協定を締結しました。相互に密接な連携を図り、双方の資源やノウハウを活用することで、脱炭素社会の実現に貢献していきます。
第三年度実績	福知山市との連携では、パナソニックグループが開発した植物繊維を高濃度で複合する最先端技術により福知山市独自の環境配慮型食器の製品化による環境負荷低減に取組むと共に、小中学校において安心安全で使いやすい食器となるよう改良を行います。学校給食食器の開発を通して、SDGsの取組推進と資源循環型社会の構築をめざします。更に福知山市内の森林の間伐材を食器の原材料に使用することを進め、小中学校児童生徒の環境問題への理解、地域資源の魅力再発見、シビックプライドの醸成を図ります。将来は、学校給食にとどまらず他の分野への展開に共同で取組を進め、地域の課題解決の促進と持続的な社会の発展をめざします。

## 1 2 の 2 その他、温暖化対策に関する取組の実施状況

区分	実施内容
基準年度までに実施した対策	当社は2019年1月にパナソニックグループの家電リサイクル工場であるPETECと、乾電池工場であるPECBEにおいて、再生可能エネルギー発電設備の導入や、再生可能エネルギー由来電力の調達、さらには化石燃料由来CO2の排出をオフセットするクレジットの活用などにより、CO2ゼロ工場を日欧2工場で実現しました。（CO2削減量は、両工場で約5,000トン）
第一年度実績	2019年度までに4拠点（6工場）がCO2ゼロ工場を実現しており、この取り組みを広げ、非製造拠点として当社初となるCO2ゼロショールーム（パナソニックセンター東京）を実現しました。（100%再生可能エネルギー由来電力の調達と化石燃料由来CO2の排出をオフセットするクレジットの活用による）CO2削減量は約1,000トン
第二年度実績	気候変動の影響等により、夏の暑さが年々深刻化しており、特に、熱中症などを予防するため、暑さ対策は一層重要性が増しています。そうした中、横浜市とパナソニックは令和元年度に暑さ対策に関する連携協定を締結し、市内にミスト式冷却機を設置する等の取組を進めてきました。令和元年度に引き続き2回目の取組として、新横浜駅ペDESTリアンデッキにミスト式冷却機を設置し、まちなかでの涼を提供いたしました。
第三年度実績	地球温暖化対策を学ぶ小中学生を対象にした展示ブース「Panasonic GREEN IMPACT PARK」をオープンいたしました。展示ブースは、CO2が生活の中で排出される場面や、CO2排出量を減らすための暮らし方、各発電方式とCO2排出の関係性、リサイクルなど資源循環の取り組みの4テーマに沿って構成されており、体験を通じて楽しく学び、新たな気付きやアクションの機会を提供できる場になりたいと考えています。

(様式第1号)

1.3 自由記載欄

A large rectangular area filled with a light green color, representing a free text field. The area is bounded by a thin black border and occupies most of the page below the header.